

## 5. 診 療

### 1) 病院概況

- (1) 本 院 (院 長：小島博己  
副 院 長：山本裕康、瀧浪將典、矢野真吾、中野 匡、安保雅博、玉上淳子  
事務部長：横山秀彦)

(1) 患者数

- ① 外来1日平均患者数：2,682名（前年度比+78名）
- ② 入院1日平均患者数： 776名（前年度比+19名）

(2) 病床利用状況

病床稼働率は72.2%（前年度比+1.8p）、平均在院日数は、12.4日（前年度比+0.1日）であった。

(3) 紹介率・逆紹介率

紹介率は医療法78.9%（昨年比-2.7p）、保険法80.2%（昨年比-2.6p）であった。

逆紹介率は医療法59.3%（昨年比-17.3p）、保険法62.4%（昨年比-18.7p）であった。

(4) 保険関係承認・届出関係（日付は算定開始日）

① 新規

- ・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体 (2022年5月1日)
- ・胸腹鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） (2022年5月1日)
- ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） (2022年5月1日)
- ・腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） (2022年5月1日)
- ・経皮的僧帽弁クリップ術 (2022年7月1日)
- ・術後疼痛管理チーム加算 (2022年10月1日)
- ・看護職員処遇改善評価料（64） (2022年10月1日)
- ・経気管支凍結生検法 (2022年11月1日)
- ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） (2022年12月1日)
- ・舌下神経電気刺激装置植込術 (2023年3月1日)
- ・腹腔鏡下仙骨腔固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） (2023年3月1日)

② 変更

- ・画像診断管理加算1 (2022年4月1日)
- ・麻酔管理料Ⅰ (2022年4月1日)
- ・麻酔管理料Ⅱ (2022年4月1日)
- ・摂食機能療法の注3に規程する摂食嚥下機能回復体制加算2 (2022年7月1日)
- ・生殖補助医療管理料1 (2022年7月1日)
- ・特定機能病院入院基本料（一般病棟（7対1入院基本料）） (2022年10月1日)
- ・急性期看護補助体制加算（25対1看護補助者5割以上） (2022年10月1日)
- ・看護補助加算2 (2022年10月1日)
- ・入退院支援加算1 (2022年10月1日)
- ・地域医療体制確保加算 (2022年10月1日)
- ・特定集中治療室管理料1 (2022年10月1日)
- ・特定集中治療室管理料3 (2022年10月1日)
- ・がん患者指導管理料Ⅰ (2022年10月1日)
- ・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1） (2022年10月1日) ※変更

③ 辞退

- ・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準 (2022年10月1日) ※辞退

(5) 先進医療

- 新規申請・承認（申請2件、承認1件）
- ・内視鏡的胃局所切除術（内視鏡部）【承認済】

- ・反復経頭蓋磁気刺激療法（精神神経科）
- (6) 臨床研究・保険適用外診療
  - ・承認件数：新規申請125件、変更申請（期間延長など）172件
- (7) 指導・監査
 

2022年10月18日に医療法等に基づく立入検査が行われ、特段大きな指摘はなかった。

  - ① 医療法第25条第1項に基づく立入検査（東京都）
  - ② 医療法第25条第3項に基づく特定機能病院立入検査（関東信越厚生局）
  - ③ 精神病院等実地指導（東京都）
- (8) 病院機能評価
 

2023年2月に日本医療機能評価機構による病院機能評価（3rdG Ver.2.0一般病院3・副機能（精神病院））を受審した。
- (9) 医療安全
  - ① 診療情報（画像・病理・内視鏡の結果報告書）の共有強化として、結果報告書の患者への原則交付、医師事務支援事務員による結果報告書の内容実行確認等の取り組みを継続して実施した。また、結果報告書の印刷件数実施率を月別・診療科別に各委員会・会議で報告し、患者への交付について継続的に周知した。
  - ② Team STEPPSは、e-ラーニング「TeamSTEPPS研修STEP1導入編」を作成し受講を継続した。
  - ③ 全教職員対象のセーフティマネジメント基礎研修、4病院合同セーフティマネジメントシンポジウム（年1回）も、e-ラーニングでの受講を可能とした。
  - ④ 4病院間の連携強化に向けた取り組みとして、年4回4病院セーフティマネジメント会議を開催し、問題点の共有を図るとともに、相互ラウンドによるピアレビューを行った。また今年度は、全国私立医科大学病院間での医療安全連絡会議及び連携強化を目的としたピアレビューとして、順天堂大学医学部附属順天堂医院及び国立がん研究センター中央病院と開催した。
  - ⑤ 公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する医療安全文化調査へ参加した。
- (10) 感染対策部
  - ① 新型コロナウイルス感染症対策
    - ・コロナ対策本部会議やteamCOVID会議を主管し対策立案の中心的役割を果たした。
    - ・教職員陽性者の対応と休職者及び入院前スクリーニング検査陽性者の対応を行った。（入院前スクリーニング検査陽性率 1.48%（前年度0.42%））
    - ・新型コロナウイルス感染症診療においては、引き続き診療科と密に連絡し、かかりつけ患者や行政依頼患者を積極的に受け入れた。（入院患者数：26診療科 計634例）
  - ② 医療関連感染対策、耐性菌感染症対策
 

各病棟に設置した感染対策のコアチームである病棟ICTとのミーティングを定期的に行い、各種サーベイランス結果や重要事例の共有をした結果、高いレベルでの手指衛生指数を維持でき、耐性菌のアウトブレイクが減少した。
  - ③ 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）介入を継続し、適正使用を推進した。
  - ④ 2022年度より「4病院感染対策会議」を年6回開催し、事例の共有や感染対策の連携を強化し、第三病院の業務支援を実施した。
  - ⑤ 診療所を含めた感染対策の地域連携組織である「みなと地域感染対策協議会」に参画し、協議会全体会議を当院にて開催した。（2022年12月1日）
  - ⑥ 病院間連携として多数の感染対策ラウンドを実施した。
    - ・感染対策向上加算1病院（東京都済生会中央病院）
    - ・私大感染対策協議会組み合わせ病院（順天堂大学医学部附属順天堂医院）
    - ・その他、感染対策向上加算3病院、外来感染対策向上加算クリニック等

(11) 患者支援・医療連携センター

- ① 連携登録医制度の登録医拡大を図った。同窓クリニック14施設17名、同窓以外クリニック85施設94名から申請があった。(2023年3月末時点)
- ② 2022年度第1回港区地域包括ケア研修会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当し、2022年7月22日にオンラインで開催した。
  - ・テーマ「互いが笑顔で良き時間を過ごすために—医療・介護現場でのハラスメント—」
- ③ 診療のご案内2022を発行した。(2022年8月)
- ④ 患者支援・医療連携センターだより「つなぐ つながる」を発行した。
  - ・No.24 (2022年7月)、No.25 (2023年1月)
- ⑤ 第42回慈恵医大夏季セミナー・東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムを2022年9月22日に会場・オンライン参加のハイブリッドで開催をした。
  - ・テーマ「ロボット支援手術の現状と展望」
- ⑥ 区中央部糖尿病医療連携検討会の事務局を患者支援・医療連携センターが担当した。
  - ・総会、作業部会(2回)を開催した。「意外と知られていない!?糖尿病と骨の関係」をテーマとして、市民公開講座、医療従事者対象研修会を2023年2月4日にオンラインにて開催した。
- ⑦ 第14回 働く人の健康支援研究会を2022年10月21日にオンラインにて開催した。
  - ・テーマ「職場復帰の判断は如何に? サポートの現状と課題~“おかえりなさい”は主治医と会社の連携で~」
- ⑧ 東京慈恵会医科大学附属病院医療連携フォーラムを2023年3月2日にオンラインにて開催した。
  - ・テーマ「コロナ猛威で何が見え医療は何処に進むのか~パンデミック後の地域医療と連携を共に考える~」
- ⑨ 子ども虐待対応チーム(CAPS)主催講習会を開催した。
  - ・「子ども虐待の対応方法、CAPSチームの運用について」(e-ラーニングでの受講形式)  
受講期間:2022年10月1日~2023年3月31日、受講者:150名
  - ・「小児虐待の発見と対応」(e-ラーニングでの受講形式)  
受講期間:2023年1月10日~2023年3月31日、受講者:48名

(12) 治験センター

- ① 治験の実施:前年度からの継続61件(前年度比-20件)、新規承認18件(前年度比+6件)、終了17件(前年度比-14件)であった。うち、新規医師主導治験は5件(前年度比+5件)であった。
- ② 特定臨床研究の実施支援:4件(前年度比+2件)  
研究責任医師からの依頼に基づき、被験者のスケジュール管理、服薬指導、同意書の確認、試験薬等の管理等を支援した。

(13) 地域がん診療連携拠点病院(腫瘍センター事務局)

- ① 腫瘍センター事務局として地域がん診療連携拠点病院の指定要件整備と機能強化を推進した。
- ② 2022年8月1日付でがん診療連携拠点病院の指定要件が更新され、未充足項目として東京都へ報告していた「がん患者の自殺リスクに対するフローや情報共有・関係機関との連携体制の確立」に関して、同年度末に充足させた。
- ③ 院内がん登録3,318件、がん相談1,022件であった。
- ④ がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会2回開催、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止していた腫瘍センターセミナーを再開した。

(14) 患者サービス

- ① 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第66号から第69号を発刊した。

- ② 2022年度「みんなの健康教室」を以下の日程で開催した。  
 ※NHK放送博物館と共催（患者支援・医療連携センター担当）  
 年間テーマ「今こそ始めよう！生活習慣革命！」
- ・第1回2022年5月21日（土）（15名参加）
  - ・第2回2022年7月9日（土）（17名参加）
  - ・第3回2022年9月17日（土）（26名参加）
  - ・第4回2022年11月19日（土）（25名参加）
  - ・第5回2023年1月21日（土）（28名参加）
  - ・第6回2023年3月18日（土）（20名参加）
- (15) 診療体制の整備
- ① 2022年度に引き続き、昭和の日、海の日、山の日の診療日・休診日を変更した。
    - ・昭和の日：4月29日（土）診療日、5月2日（火）休診日
    - ・海の日：7月17日（月）診療日、7月15日（土）休診日
    - ・山の日：8月11日（金）診療日、8月5日（土）休診日
  - ② 2023年3月20日付けで、東京都より「救命救急センター」の指定を受けた。
  - ③ 2022年12月1日付けで、歯科の標榜科名を歯科口腔外科へ変更した。
  - ④ 成人虐待に対応すべく「家族支援チーム」を設置し、2023年2月より運用開始した。
- (16) 工事関係（日付は東京都への申請日）
- ① E棟2階大学管理室3室名変更 (2022年8月3日)
  - ② E棟11階喫煙室用途変更 (2023年1月19日)
  - ③ 診療用エックス線装置設置（既存の診療室に追加） (2023年3月24日)
- (17) 施設・診療機器
- ① 2022年12月に、中央棟及びE棟の病室内床頭台を更新した。
  - ② 2台目のdaVinciXiが9月末に設置され、11月14日（月）より運用を開始した。
- (18) 携帯通信端末の更新  
 業務用携帯通信端末を、iPhone7からiPhone12に機種変更した。（7月18日～8月11日）
- (19) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。  
 2022年6月28日（火）、29日（水）献血者82名（申込者数96名）  
 2022年12月8日（木）献血者39名（申込者数44名）
- (20) 「東京慈恵会医科大学附属病院年報」の発刊  
 2021年度版を2023年1月に発刊した。
- (21) 臨床研修
- ① 2022年度臨床研修採用者は、医科27名（内訳：本学卒7名、他学卒29名）、歯科2名の計38名であった。
  - ② 2023年度採用臨床研修医のマッチング率は100%であった。
- (22) 研修会・講習会
- ① がんに関わる医師に対する緩和ケア研修会
    - 第27回：2022年10月1日（土）・修了者：医師27名（本学26、他院1）
    - 第28回：11月27日（土）・修了者：医師28名（本学27、他院1）
  - ② 慈恵ICLSコース、慈恵BLSコース
    - ・慈恵ICLSコースを2回開催した。
 

日 時：2022年 11月26日（土）	本院 参加 18名
日 時：2022年 3月11日（土）	本院 参加 18名
    - ・慈恵BLSコース（全職種対象）を10回開催した。 本院 参加139名
    - ・慈恵BLSコース（看護部）を9回開催した。 本院 参加235名
    - ・慈恵BLS Renewalコースを12回開催した。 本院 参加152名

・JAMPコース（緊急気道管理コース）を1回開催した。

日 時：2023年 1月14日（土）

本院 参加13名

・ICLS指導者ワークショップ、PBLSコースは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

③ 保険診療に関する講習会

・第1回 「保険診療の基礎講習会／診療録の書き方講習会」をe-ラーニングにて配信  
期 間：2022年6月1日（水）～2023年3月31日（金）

受講者数：4機関合計1,250名

・第2回 「看護職・事務職のための保険診療講習会」

2022年6月6日（月）2号館講堂

受講者数：91名

・第3回 「パラメディカルのための保険診療講習会」

2022年7月9日（土）大学1号館講堂3階

受講者数：61名

・第4回 「指導の立場から」

2022年10月11日（火）大学1号館講堂3階

受講者数：51名

・第5回 「本院における査定の傾向と対策（内科の立場から／外科の立場から）「診療録監査実施報告」

2022年12月19日（月）2号館講堂

受講者数：54名

・第6回 「指導の立場から一漏れのない適正な保険診療と算定のために」

2022年12月20日（火）2号館講堂

受講者数：53名

②③ 慈恵医大晴海トリトクリニック（所長：横山啓太郎）

① 外来1日平均患者数66人（対前年比－2人）

② 健診1日平均健診者数21人（対前年比＋1人）※土曜日含まず

③ 中央区民を主な対象とした新型コロナワクチン接種事業について2022年4月より2023年1月までに16歳（高校生）以上の150人に接種を実施した。

④ 中央区の女性検診（乳がん・子宮がん）を508名（対前年比－30人）、特定健診を115名（対前年比＋15人）実施した。

②④ 港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」（施設長：北島健）

① 指定管理者

2022年10月13日付けで、本学が2023年度以降も指定管理者として引き続き指定される旨の公示がされた。（指定期間：2023年4月1日から2028年3月31日）

② がん相談対応

・相談件数：303件（面談186件、電話117件）、前年度比＋3.1%

・相談者内訳：患者本人52.2%、家族38.9%

③ がんを患った人と家族のために区内の協働スペースで開催する「出張くつろぎカフェ」を継続した。

④ アピアランスアドバイザーによるサロン形式による相談を行う「すみれサロン」を新たに開始した。

⑤ その他、セミナーやイベントを下記のとおり開催した。

がんと生活のセミナー（年間8回開催）、栄養セミナー（年間11回開催）、ウェルネスセミナー（年間10回開催）、両立支援セミナー（年間12回開催）、その他各種セミナーやヨガ体験会、映画上映会、アロマワークショップなど

⑥ 地域行政、港区三師会他、関係機関との連携

・在宅療養相談窓口との事例検討会を定期開催とし、地域包括ケアにおける協力体制を強化した。

・「がん対策みなと2022」をみなと保健所と共催し、港区三師会を招聘し展示を行った。

・区内の公益財団法人であるkissポート財団、白金台の地域住民が中心となり実施する白金台ウェルネスプロジェクトなどと連携し、共催イベントを実施した。